

令和 2 年度

学校法人高水学園
事業報告書

令和 3 年 5 月 15 日 理事会決定

1 法人の概要

(1) 建学の精神

学校法人高水学園は、明治初年、熊毛郡高水村(現周南市)に開設された磨鍼塾を源流とする。村塾以来一貫した建学の精神は、「徳性の陶冶」と「楽学」の実践

にあり、勤労を尊び生活は質素であるべきことを教育の指導理念としてきた。今後もこの建学の精神を継承していき、さらに広い世界観に立つ教育を実践していく。

(2) 法人の概要

明治	31年	4月	山口県高水村新町に就業年限2ヶ年の高水村塾を創設
	32年	11月	私立学校令発布により塾則を制定
大正	9年	7月	修業年限5ヶ年に延長し高水中学と改称
	12年	3月	財団法人山口県高水中学校に移行
昭和	23年	4月	学制改革により山口県高水高等学校に移行、併設中学校は付属中学校と改称
	26年	3月	学校法人山口県高水高等学校設立
	27年	4月	全日制商業科設置
	29年	4月	岩国市に学校移転
	34年	4月	校名を高水高等学校・同付属中学校と改称
	35年	4月	高水高等学校家政科を設置
	46年	4月	法人名を高水学園と改称、岩国短期大学(幼児教育科、英語科)を設立
	51年	3月	高水高等学校家政科を廃止
	56年	11月	岩国短期大学創立10周年記念式典挙行
平成	10年	10月	学園創立100周年記念式典挙行
	13年	4月	岩国短期大学にビジネス実務科設置
	14年	3月	岩国短期大学英語科を廃止
	18年	4月	ビジネス実務科をキャリアデザイン学科に名称変更
	20年	4月	高水高等学校付属中学校と高水高等学校の一貫教育の施行(学則に規定化する)
	25年	3月	岩国短期大学キャリアデザイン学科廃止

(3) 設置する学校学科の名称・設立月・所在地

令和2年5月1日現在

学校名	設立年月	所在地
岩国短期大学	昭和46年4月	山口県岩国市尾津町二丁目24番18号
高水高等学校	昭和26年3月	山口県岩国市尾津町二丁目24番18号
高水高等学校附属中学校	昭和26年3月	山口県岩国市尾津町二丁目24番18号

(4) 設置する学校学科の入学定員と学生生徒数(単位：人)

令和2年5月1日現在

学校名	学科名	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
岩国短期大学	幼児教育科	70	61	150	109
高水高等学校	普通科	280	170	840	580
高水高等学校附属中学校		70	29	210	80

【教職員の概要 専任(非常勤)】(単位：人)

令和2年5月1日現在

学校名	教員数(非常勤)	職員数(非常勤)	合計(非常勤)
岩国短期大学	13 (22)	7 (10)	20 (32)
高水高等学校	41 (9)	7 (3)	48 (12)
高水高等学校附属中学校	8 (2)	0 (1)	8 (3)

(5) 役員等の概要

(令和2年5月1日現在)

● 理事の就任年月日

定員数 理事8名、監事2名

区 分	氏 名	常勤・非常勤の別	経 歴 (役割)	就 任	
				就任年月日 (重任年月日)	届出年月日 (登記年月日)
理 事 長	宮 川 明	常勤	高水学園理事長	平成12年12月7日 (H28.10.13)	平成24年10月31日 (H24.10.22)
常務理事	宮 川 洋	常勤	高水高等学校 (財務担当)	平成16年10月13日 (H28.10.13)	平成24年10月31日 (H24.10.22)
理 事	寺 嶋 隆	常勤	岩国短期大学学長(教学)	平成12年12月7日 (H28.10.13)	平成24年10月31日
理 事	前 田 茂 雄	常勤	高水高等学校校長(教学)	平成23年4月1日 (H28.10.13)	平成24年10月31日
理 事	富 沢 佐 一	非常勤	中国新聞社客員編集委員 (広報担当)	平成24年10月13日 (H28.10.13)	平成24年10月31日
理 事	松 原 一 誠	非常勤	錦ドリーム開発取締役 (広報担当)	平成17年4月1日 (H28.10.13)	平成24年10月31日
理 事	加 藤 善 美	非常勤	前高水高等学校長 (教学指導担当)	平成25年4月1日 (H28.10.13)	平成25年4月9日
理 事	館 澄 子	非常勤	高水学園同窓会副会長 (教学指導担当)	平成27年4月1日 (H28.10.13)	平成27年4月1日

● 監事の就任年月日

区 分	氏 名	常勤・非常勤の別	就 任	
			就任年月日 (重任年月日)	届出年月日
監 事	村 元 真 澄	非常勤	平成27年12月10日 (H28. 10. 13)	平成27年12月14日
監 事	稗 本 哲 也	非常勤	平成31年3月1日	平成31年3月1日

(6)評議員の概要

(令和2年5月1日現在)

(定員数17名)

氏名	主な現職等	就任	
		就任年月日	重任年月日
宮川 明	理事長	平成31年3月1日	
宮川 洋	常務理事	平成17年4月1日	平成28年10月13日
寺嶋 隆	理事	平成11年4月1日	平成28年10月13日
前田 茂雄	理事	平成23年4月1日	平成28年10月13日
松原 一誠	理事	平成12年10月13日	平成28年10月13日
富沢 佐一	理事	平成16年10月13日	平成28年10月13日
舘 澄子	理事	平成12年10月13日	平成28年10月13日
加藤 善美	理事	平成29年3月2日	
宮本 剛	高水高等学校附属中学校長	平成27年4月1日	平成28年10月13日
西村 宏	岩国市教育長職務代理者	平成22年4月1日	平成28年10月13日
渡辺 耕而	元高水高等学校附属中学校長	平成20年3月1日	平成28年10月13日
吉岡 賢一	高水学園同窓会副会長	平成15年7月16日	平成28年10月13日
長尾 泰子	元高水学園嘱託	平成12年10月13日	平成28年10月13日
玉田 和子	錦病院理事	平成16年10月13日	平成28年10月13日
松本 泰行	元高水高等学校教頭	平成28年10月13日	
那須 理恵	日本私立学校振興・共済事業団 非常勤職員	平成27年12月10日	平成28年10月13日
中村 洋子	岩国短期大学事務長	平成28年10月13日	

(7)校地校舎等の状況

① 校地等

(令和2年5月1日現在)

区分	(学校名) 岩国短期大学			高水高等学校・中学校			合計		
	専用	共用	計	専用	共用	計	専用	共用	計
所有	m ² 34,551.00	m ²	m ² 34,551.00	m ² 131,822.00	m ²	m ² 131,822.00	m ² 166,373.00	m ²	m ² 166,373.00
借用			0.00			0.00			0.00
合計	34,551.00	0.00	34,551.00	131,822.00	0.00	131,822.00	166,373.00	0.00	166,373.00
最終届出年月日	H21年	12月	28日	H10年	2月	3日	年	月	日

② 校舎等

区分	岩国短期大学			高水高等学校・中学校			合計		
	専用	共用	計	専用	共用	計	専用	共用	計
所有	m ² 8,705.00	m ² 0.00	m ² 8,705.00	m ² 18,482.00	m ² 0.00	m ² 18,482.00	m ² 27,187.00	m ² 0.00	m ² 27,187.00
借用									
合計	8,705.00	0.00	8,705.00	18,482.00	0.00	18,482.00	27,187.00	0.00	27,187.00
最終届出年月日	H17年	5月	31日	H29年	7月	13日	年	月	日

II. 事業の概要

■【法人全体】

文部科学省の「経営強化集中支援事業」に5年連続で採択された。また、教育振興寄付金の活動を継続し、外部資金を獲得することができた。

■【短期大学】

I. 事業報告

1. 建学の精神に基づき、地域に信頼される特色ある短期大学づくり

本学の建学の精神「楽学」を踏まえて、

◎徳性の陶冶を重んじ、人間性を練り鍛え、豊かな人間形成を図る。

◎地域に生きて働く人材を養成する。

というこの教育理念のもと、地域に信頼される特色ある短期大学づくりに取り組んできている。そのためには質の高い教育の実践と地域貢献が不可欠であり、地域での本学の認知度を向上させ、本学への進学率を高めることや、保育関係者の本学への信頼に基づく就職などの協力体制の構築に努めてきた。また、岩国市唯一の高等教育機関であること、また幼児教育科単科の短大であるという特性を生かすために、岩国子育て支援ネットワーク(lwatan 子育て愛ねっとアカデミー)の組織を最大限に活用して、子育て支援等の事業を展開している。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、多くの取り組みを中止したり遠隔授業を実施したりした。この1年の本学におけるICT(情報通信技術)の取り組みやそれを活用した教育の創造が、さらなる質の高い教育の実践につながってきており、今後も継続して取り組んでいく。

今年度の具体的な取り組みは、次の事業内容に記す。

II. 事業内容

1. 質の高い教育の実践と地域密着の短期大学

(1)保育実践力の養成

①系統的な取り組み(行事)による保育実践力の養成

1年次の「お店屋さんごっこ」「大学祭キッズルーム」、1・2年生合同の「lwatan 親子フェスタ」等を内容とする行事等を通して、2年間のスパンで系統的に保育実践力の育成に努めている。本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、次のように変更して行った。

・「お店屋さんごっこ」→ 大学祭前日祭で、「キッズランド in 清流祭」に変更して実施。

・大学祭での「キッズルーム」→「キッズランド in 清流祭」と兼ねて実施。

・1・2年生合同の「lwatan親子フェスタ」→ Web版「lwatan親子フェスタ」に変更して実施。

②「音・美・体」の教育の充実

保育現場での実践に深く関わる、音楽・図画工作・幼児体育の知識や技能習得の充実を図っている。ピアノ実技では習熟別指導を行い、その成果の発表の場として、ウィンター・コンサートや卒業記念コンサートを行っている。図画工作では壁面装飾の製作、幼児体育では、模擬授業や1・2年生合同運動会の取り組み等、現場に即した内容を多く取りいれている。

③「クリエイティブ・ムーブメント」による本学独自の自己表現力育成の推進

1年次開講の基礎教養科目「クリエイティブ・ムーブメントⅠ・Ⅱ」は、さまざまなワークショップ等をおして、自己表現の方法や意義、コミュニケーション能力の向上をめざした本学独自の授業科目である。当授業科目は保育者養成のための他の表現系専門教育科目(今年度開講の「保育内容指導法(表現Ⅱ)」等)の基礎としても位置付けている。今年度は、授業以外の行事でも、清流祭での劇発表、オープンキャンパスの学科紹介等で自己表現力育成の成果が見られた。また、本科目の表現力に

関する学生の自己評価の結果は、平均 2.93(4段階評価)と概ね良好である。

④教育・保育・施設実習の充実

専門性が高く保育実践力のある保育者を養成するために、「模擬保育」「1・2 年生合同学習会」「実習事前指導(絵本 100 冊読み、保育現場でよく使う漢字テスト、手遊び歌、パネルシアター、素話等)」「実習評価 1. または 2 と評価の低い学生への個別指導」「自主実習の推奨」等の取り組みを行った。なお、「教育・保育実習連絡協議会」「施設実習連絡協議会」は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から中止とした。

⑤保育現場力の活用

「ようこそ先輩！保育実践力養成講座」を開講し、保育・福祉現場で活躍している卒業生を講師として招き、就職体験講話・ピアノの弾き歌い・ワークショップ等をとおして、保育実践力や学生の就職意識が高まっていくように努めた。なお、「ようこそ先輩！保育実践力養成講座(施設編)」の講座は、新型コロナウイルス感染症対策の観点からリモートで実施した。

令和 2 年度「ようこそ先輩！保育実践力養成講座」

回	月 日	対 象	講 師
第 1 回	令和 2 年 7 月 3 日 (土)	2 年生	認定こども園至心保育所勤務 角本世梨菜先生(平成 29 年度卒)
第 2 回	令和 2 年 9 月 25 日 (金)	2 年生	認定こども園灘幼稚園勤務 笠野 菜月先生(平成 27 年度卒)
第 3 回	令和 3 年 1 月 15 日 (金)	1 年生	広島新生学園勤務 正化 美咲先生(平成 27 年度卒) ※Google meet によるリモート

⑥レクリエーション・インストラクター取得コースの充実

幼稚園教諭免許状と保育士資格取得以外に、希望する学生が日本レクリエーション協会のレクリエーション・インストラクターの資格を取得できるようにカリキュラムを整えている。受講した学生は、いろいろな人とのコミュニケーションを取りながら、レクリエーション指導ができる力を身につけている。1 年次に、レクリエーション実技 30 コマと理論 15 コマを受講し、2 年間で実習科目 15 コマ以上と外部実習に 15 時間以上または、3 回以上のボランティアを行う内容となっている。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、多くの外部イベントが中止となり外部実習を行うことができなかった。その代替え措置として、校内で、指導案を作成し、模擬授業を 3 回以上実施し、実施後にフィードバック・レポートを提出させた。

レクリエーション受講生及び資格取得者の推移

(単位:人)

	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
1 年生受講者	50	18	28
2 年生受講者	—	40	16
レクリエーション・インストラクター資格取得者(卒業時)	—	40	11

(2)就職支援の充実

①就職支援システムの推進

キャリア支援プログラムに基づき、キャリア支援センターが主体となり、全教職員で職業教育を行った。主な取り組みは次のとおりである。

* 入学予定者を対象とした「プレカレッジ」

* 入学直後の「新入生合宿研修」、1年前期の「基礎ゼミナール」、1年後期、2年前後期の「キャリア開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」等による職業教育

* 現職園長による面接指導講座

* 「フォローアップセミナー」、「卒業後3年目のキャリアアップ研修」

なお、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、「新入生合宿研修」を「新入生研修会」、「フォローアップセミナー」をWeb版に変更し、「卒業後3年目のキャリアアップ研修」を中止とした。

②就職ガイダンス、東部校訓練生の受け入れと就職ガイダンスの実施

例年、山口県立東部高等産業技術学校の保育士養成科の訓練業務及び就職支援業務委託制度を利用した社会人を受け入れている。年に3回、就職ガイダンスを実施し、日々保育職への就職支援を行い、全員就職できた。

また、全学生に対しても、1年次には、「入学時オリエンテーション」「基礎ゼミ」「後期オリエンテーション」「キャリア開発Ⅰ」、2年次には「前期オリエンテーション」「キャリア開発Ⅱ」「キャリア開発Ⅲ」の授業の中で、就職ガイダンスを行い、本年度も就職率100%を達成した。

③就職面談、面接指導の実施

キャリア支援センター職員が進路希望調査に基づき、全学生を対象に1回20分程度の就職個人面談を行っている。更に今年度からは、ネットでの面談予約システムを取り入れ、学生が利用しやすいように改善を図った。また学生が積極的に自分自身の就職活動を進めていくために、報告・連絡・相談を重視した支援を行った。2年生一人当たりの利用回数の平均は、10.5回の高い利用率となり、学生の就職希望先への内定に繋がった。

令和2年度 キャリア支援センター室利用者

(単位:人)

就職調査のための個人面談	就職活動のための個人面談	資料室利用者数	合計
86	307	3	396

※数値は、延べ人数

④就職試験対策講座

山口県私立幼稚園協会、岩国私立幼稚園協会等ごとに実施する適性試験の対策として、就職試験対策講座を次のとおり開講した。

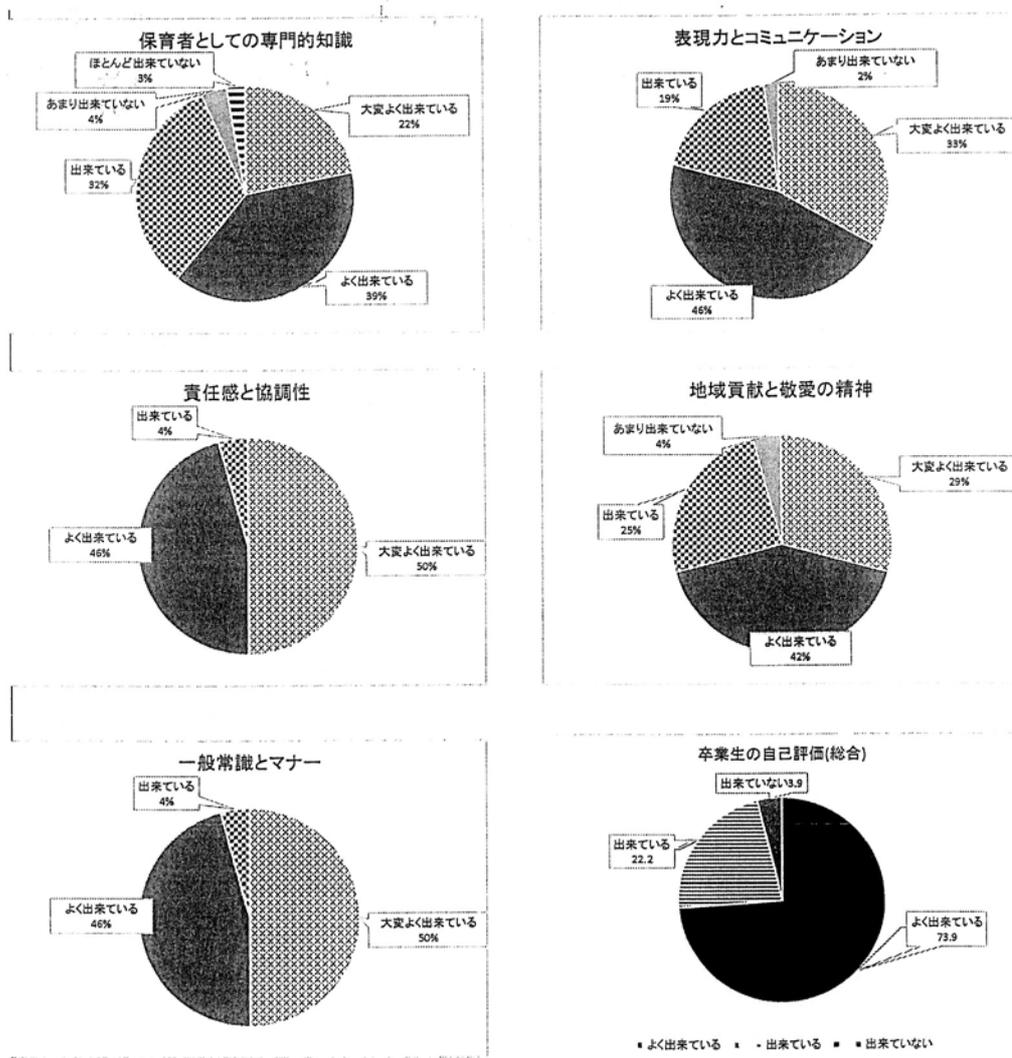
令和2年度 山口県・岩国市幼稚園教員採用試験対策講座

月日	時間	内容
6月4日(木)	5時限	表現
6月9日(火)	5時限	幼稚園教育要領、幼稚園の先覚者と重要用語
6月11日(木)	5時限	造形講座
6月16日(火)	5時限	教育行政について
6月18日(木)	5時限	身体表現・体育(岩国市)
	随時	岩国市私立幼稚園試験直前確認(ピアノ実技模擬試験)

⑤卒業生就職先アンケートの実施による教育・就職支援の改善

教育・就職支援の自己点検・評価活動のために、卒業生就職先へのアンケートを実施している。本学の学習成果「保育者として専門的な知識と技能」に関すること、「表現力とコミュニケーション能力」

に関すること、「責任感と協力性」に関すること、「地域貢献と敬愛の精神」に関する 22 項目無記名方式で、5 段階評価で回答を得た。アンケート結果は、内容ごとに集計し、その結果を教授会等で報告し、全員で学習の成果の点検に活用した。



⑥県内就職率向上のための取り組み

「就職ナビ in いわたん」の実施と拡充

「就職ナビ in いわたん」を県内東部地区の幼稚園・保育所・認定こども園・施設の合同説明会へと拡充したが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策の観点から対面での実施は中止とし、「Web 就職ナビ in いわたん」を実施した。直接説明を受けられず、雰囲気を感じ質問することができなかったこと等のデメリットはあったが、メリットとして、Web 上での掲載を令和 3 年 1 月末までとしたことで、学生がいつでも、繰り返し視聴することができ、情報を幅広く得ることができ分析に役立った。また保護者と一緒に関覧でき、就職相談することに生かされ県内の就職率アップへと繋がった。

(3)地域貢献

①岩国子育て支援ネットワーク(lwatan 子育て愛ねっとアカデミー)の事業の充実

例年、岩国子育て支援ネットワーク(lwatan 子育て愛ねっとアカデミー)は、岩国市と共同開催する「保育者対象研修会(年 2 回)」、「lwatan 親子広場(年 6 回)」と 3 月に開催する「lwatan 親子フェスタ」の事業を展開している。

本年度の事業内容は次のとおりである。なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、一部中止をし、規模を縮小して実施した。第 10 回「lwatan 親子フェスタ」は、Web による開催とした。

■Web 版第 10 回「lwatan 親子フェスタ」

○視聴期間…令和 3 年 3 月 7 日(日)～3 月 21 日(日)

○動画…岩国市長挨拶、米海兵隊岩国航空基地副指令官挨拶、学生動画等 59 動画 UP

■令和 2 年度「保育者対象研修会」

	日 時	演 題	講 師
第 1 回	※新型コロナウイルス感染症対策のため中止		
第 2 回	1 月 30 日(土)14:00～15:30	Zoom によるオンライン研修 「感染予防は口から」	佐々生康宏先生

■令和 2 年度「lwatan 親子広場」実施状況及び参加者数

(単位:人)

回	日時及び講師	講 座 名	学生ボラン ティア(人)	参加 親子(組)	保護者 (人)	子ども (人)	合計 (人)
1	5 月 9 日(土) 10:00～11:30 講師:岩国短期大学 正長 清志	バラスポーツに挑戦! ～ポッチャと風船バレーを楽 しもう～					
2	6 月 14 日(日) 10:00～11:30 講師:岩国短期大学 朝倉 なぎさ	親子でワクワク表現遊び ～なりきり遊びを楽しもう～					
3	7 月 11 日(土) 10:00～11:30 講師:岩国短期大学 山縣 明人	わが子の心の世界を知っ て、潜在能力を伸ばしましよ う					
4	9 月 26 日(土) 10:00～11:30 講師:岩国短期大学 井上 美佳	親子 de リトミック	4	3	3	5	8
5	10 月 24 日(土) 10:00～11:30 講師:岩国短期大学 西本 裕子	できた、やったー! 運動遊び	6	7	7	11	18
6	11 月 21 日(土) 10:00～11:30 講師:岩国短期大学 半 直哉	創造力を育てるあそび ～ミニ・インドア アスレチ ック～	10	12	7	11	18
合 計			20	22	17	27	44

②岩国市、岩国商工会議所との連携推進

岩国市との包括連携協定に基づき、岩国子育て支援ネットワーク(lwatan 子育て愛ねっとアカデミー)に関する事業を行い、連携推進を図った。第 10 回を迎えた「lwatan 親子フェスタ」は、記念大会として岩国市から補助金の助成を受け、また、岩国市長挨拶の動画コンテンツの協力を得た。なお、年 1 回行っている包括連携協定推進会議は、日程調整などがつかず開催することができなかった。そのため、事業推進にあたっては担当者同士の連携を密にして事業実施に円滑に行われるよう工夫した。

岩国商工会議所とは、例年、「岩国祭」に学生がボランティア参加し連携をしていたが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となり、参加がとりやめになった。連携推進委員会では、本年度第 10

回「lwatan 親子フェスタ」の Web 開催について打ち合わせを行い、動画コンテンツの協力を依頼したところ、青年部の多くの会員事業所の積極的な協力が得られた。

③高大連携協定校との連携推進

高大連携協定校とは、第 1 回の連携推進会議において事業推進計画を協議し、出前授業や行事における連携を図った。Web 開催となった第 10 回「lwatan 親子フェスタ」には、全協定校から動画コンテンツの作成に協力が得られた。また、岩国商業高等学校、岩国総合高等学校、高森みどり中学校・高森高等学校の各協定校とは、校長の依頼に基づき、本学の学長及び教員が学校運営協議会委員として高校の学校運営に協力した。

令和 2 年度 高大連携協定推進会議開催一覧

高大連携協定校	開催日	会場
高森みどり中学校・高森高等学校	令和 2 年 7 月 8 日 (水)	岩国短期大学
岩国商業高等学校	令和 2 年 7 月 14 日(火)	岩国短期大学
大竹高等学校	令和 2 年 7 月 14 日(火)	岩国短期大学
熊毛北高等学校	令和 2 年 7 月 15 日(水)	岩国短期大学
岩国総合高等学校	令和 2 年 7 月 17 日(金)	岩国総合高等学校

④学生ボランティア活動の推奨

学生全員に、ボランティア活動記録カードを配付しボランティア活動を推奨している。地域からのボランティア依頼の他、1 年生は、年間 6 回開催する「lwatan 親子広場」に参加し、年間 2 回以上のボランティア活動を行うようにしている。ただし、本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、多くのボランティア活動が中止となった。

学生のボランティアに対しては、在籍中、ボランティア活動に積極的であった学生を学位記授与式に表彰している。近年の実績は、次の表のとおりである。

宮川澳男賞、地域貢献奨励賞受賞者数と割合の推移

	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
	人	%	人	%	人	%	人	%
宮川澳男賞(2 名)	27	38%	29	43%	26	44%	18	45%

⑤免許状更新講習の実施

幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園保育教諭、認可保育所保育士等にむけて、夏季休業中の 8 月に、幼稚園教諭免許状更新講習(必修領域・選択必修領域)を実施している。令和元年度は、必修領域では、幼稚園教諭に求められる最新の知識習得及び、教育問題について 6 時間、選択必修領域では、幼児教育現場に求められる国際理解や異文化理解のための基本理念と具体的対応の視点について 6 時間の講座題目を設定した。2 日間にわたり、受講生 70 名を迎え開講した。令和 2 年度も同様の内容を計画していたが、新型コロナウイルス感染症のため中止した。

⑥生涯学習公開講座の開催(年2回)

本年度は、次のとおり計画していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、全講座を中止とした。

【前期】

講座名
パソコン講座～Excelの関数を使ってみよう～
楽しい声楽～世界の名曲とオペラアリア～
保育現場で使える英語講座～初級編～

【後期】

講座名
パソコン講座～Wordで作ろう～
楽しい音楽史～入門編～
中高年のスマホ・タブレットに入門 PartⅢ
楽しい声楽～歌曲からオペラアリアまで～

(4)入学定員確保

①魅力あるオープンキャンパスの実施

学生の受験動機として、オープンキャンパスが進路決定の大きな要因になっている。そのため、月1回程度のペースで開催するOCP(Open Campus Project)会議(令和2年度12回開催)では、毎回のオープンキャンパスをより魅力あるものにするための協議を重ねている。参加した高校生のアンケート結果を見ても、模擬授業や学びの成果を生かした学生による学科発表は毎回好評を博しており、本学の良さを肌で感じてもらう絶好の機会となっていることが分かる。また、明るく生き生きと頑張っている学生と触れ合えることも高校生や保護者にとっても貴重な機会となっている。

令和2年度からは学生全員が年間に一度はオープンキャンパスのキャンパスメイトとして参加し、事前の準備や当日の運営に役割を担って活躍しており、貴重な学びの場になっている。

近年の傾向として、保護者同伴で参加する高校生が増え、終了後に開設する個人相談ブースでは、学費や奨学金、選抜種別、総合型選抜の実技や個人面接の受け方などを親子で質問する姿が見られた。

令和2年度 オープンキャンパス参加者数

(単位:人)

開催日	生徒						社会人	参加者数 (内:高水生)	保護者	総計
	3年生		2年生		1年生					
	男	女	男	女	男	女				
5月9日(土)	Web開催									
6月14日(日)	Web開催									
7月11日(土)	2	14					1	17 (1)	10	27
8月8日(土)	2	30	1	13		2	1	49 (10)	14	63
9月26日(土)	2	28		3			1	34 (5)	13	47
10月24日(土)		27	1	2			2	32 (6)	11	43
11月21日(土)	Web開催									
12月20日(日)	1	5		2			1	9 (2)	2	11
3月20日(土祝)				10				10 (0)	4	14
各項目別小計	6	104	2	30	0	2	6	132 (0)	54	191

②本学独自の奨学金制度の拡充

令和3年度の入学予定者の状況を見ると、指定校推薦選抜成績優秀者奨学金(協定校優遇制度を含む)が適用される者が多くなり、各高等学校で活躍してきたリーダー性のある成績優秀な生徒が多くなっていることから、本学独自の奨学金制度の有効性が伺える。特に、高大連携協定校については、協定校優遇制度を活用して経済的負担の軽減を図ることができるため、入学者を増やすこ

とができている。国の修学支援新制度や山口県保育士修学資金貸付制度が始まって意欲的に学ぶ学生への公的な支援は充実しつつあるものの、その制度の対象にならない学生への支援体制として、従前から整備している本学独自の奨学金制度の継続は不可欠である。

令和3年度入学予定者の学校独自の奨学金受給者

奨学金名称	奨学金内容	人数	備考
総合型選抜特別奨学金	入学金全額免除	1	
	入学金半額免除	1	
指定校推薦選抜成績優秀者奨学金	入学金全額免除者	8	
	入学金半額免除	5	
高大連携協定校奨学金 (優遇制度)	入学金全額免除	3	再掲3名
	入学金半額免除	16	再掲3名
高水生優遇措置	入学金全額免除	11	
社会人進学支援奨学金	授業料半額免除	1	
遠隔地出身学生生活支援奨学金	月1万円授業料免除	0	2年生継続者3名
卒業生子女等進学支援奨学金	入学金半額免除	0	
奨学金支給総人数		46	入学者61名 (職業訓練生10名含む)

※数値は、延べ人数を含む

③中・高大連携授業の推進

毎年作成する「保育者をめざす高校生のための高大連携出前授業プログラム」パンフレットを年度当初の第1回高校訪問に持参し、進路指導担当の先生方に本学の特色等を説明する中で紹介している。出前授業を実施した各高等学校の教員からは、保育をめざす生徒にとって非常に充実した内容であり効果的であるとの評価があり、本学教員は、授業の合間を縫っての対応となるが、依頼があれば積極的に対応している。

令和2年度 中大・高大連携出前授業実施一覧

月	日	曜	出前授業内容、実施学年、受講人数等	実施場所(校)
6	9	火	「保育者のよろこび」3年生17名	岩国総合高等学校
6	19	金	「保育者は魔術師」3年生「こども文化」選択者 8名	高森高等学校
7	3	金	「保育者のよろこび」3年生「こども文化」選択者 8名	高森高等学校
7	7	火	「ようこそ絵本の世界へ」中学3年生Aクラス25名 Bクラス25名	高森みどり中学校
7	21	火	「保育者は魔術師」3年生17名	岩国総合高等学校
7	28	火	「保育者のよろこび」中学3年生 Aクラス25名 Bクラス25名	高森みどり中学校
8	31	月	「子供の夢中を引き出す」3年生「課題探求」選択者 10名	大竹高等学校
9	1	火	「保育者のよろこび」3年生「子どもの発達と保育」選択者 ①21名 ②16名	光丘高等学校
9	3	木	「保育者は魔術師」3年生「子どもの発達と保育」選択者 ①21名 ②11名	熊毛北高等学校
9	8	火	「乳幼児の親子関係・仲間関係」中学3年生Aクラス25名 Bクラス25名	高森みどり中学校
9	11	金	「ことばで遊ぼう」3年生「こども文化」選択者 8名	高森高等学校
9	14	月	「ようこそ絵本の世界へ」3年生「こども文化」選択者 8名	高森高等学校
9	14	月	「ことばで遊ぼう」2年生「こども文化」選択者 12名	光丘高等学校
9	15	火	「子どもの夢中を引き出す」3年生「子どもの発達と保育」選択者①21名 ②16名	光丘高等学校
9	18	金	「わくわく音楽遊び」3年生「こども文化」選択者 8名	高森高等学校
9	29	火	「保育者は魔術師」3年生「子どもの発達と保育」選択者①21名 ②16名	光丘高等学校
10	6	火	「保育者は魔術師」3年生「子どもの発達と保育」選択者 17名	新南陽高等学校
10	12	月	「乳幼児の親子関係・仲間関係」3年生「課題探求」選択者 10名	大竹高等学校
10	14	水	「ようこそ絵本の世界へ」3年生「課題探求」選択者 10名	大竹高等学校
10	16	金	「子どもの夢中を引き出す」3年生「こども文化」選択者 8名	高森高等学校
10	20	火	「わくわく音楽遊び」3年生 17名	岩国総合高等学校
10	22	木	「わくわく音楽遊び」2年生「こども文化」選択者 12名	光丘高等学校
10	23	金	「からだほぐし運動」3年生「こども文化」選択者 8名	高森高等学校
10	23	金	「子どもの夢中を引き出す」3年生「子どもの発達と保育」選択者 17名	新南陽高等学校
10	26	月	「乳幼児の親子関係・仲間関係」3年生「こども文化」選択者 8名	高森高等学校
10	27	火	「保育者のよろこび」3年生「子どもの発達と保育」選択者 17名	新南陽高等学校
10	27	火	「エンパワーメントに注目してみよう」3年生「子どもの発達と保育」選択者 ①21名 ②11名	熊毛北高等学校
10	30	金	「表現ワークショップ」3年生「こども文化」選択者 8名	高森高等学校
12	21	月	高水高等学校1年生高大連携授業 1組 31名	岩国短期大学講堂
2	12	金	高水高等学校1年生高大連携授業 2組 30名	岩国短期大学講堂
2	15	月	高水高等学校1年生高大連携授業 3組 30名	岩国短期大学講堂
2	18	木	高水高等学校1年生高大連携授業 4組 30名	岩国短期大学講堂
2	24	水	高水高等学校1年生高大連携授業 5組 30名	岩国短期大学講堂

(5)教職員の資質向上

①FD研修による授業改善等

新型コロナウイルス感染症の拡大により、オンライン授業への対応が急務となり、FD研修では、Google Classroom、Google meet の操作方法、動画編集等の研修を行った。また、実習中の学生へのサポートを充実させるために、「Web版保育・教育実習サポート」「Web版施設実習サポート」を新規作成し、ICTを活用した教育の向上に努めた。

②SD研修の充実

SD活動は、「岩国短期大学SD実施委員会規程」により、毎月1回の定例委員会を開催し、事務局の業務の見直しや事務処理の改善等、事務職員の能力開発等を行った。さらに、学外研修参加後には、学内での報告会を実施し、情報の共有に努めた。SD研修会は、事前に事務職員全員に対し、今後必要と思われるスキル等についてアンケートを行い、それを参考に実施した。あわせて、日常的に業務の見直しや事務処理の点検・評価や改善は、月1回の事務協議会において、学内事務の運営及び連絡調整に関する事項を協議する中で行った。本年度のSD研修会の実施状況は、次のとおりである。

令和2年度SD研修会

月 日	研 修 内 容
5月15日(金)	①Gmailの活用方法
	②Google meet オンライン会議
8月19日(水)	経営・財務状況等経営改善に関する説明会
8月26日(水)	Office365を活用したテレワークの可能性について
10月28日(水)	入試業務受付、電気・セコム・防火設備
2月18日(木)	窓口対応マニュアルの見直し

③教職員合同研修会の実施(SWOT分析、財務状況説明会、ハラスメント研修会等)

教職協働の観点から、本学の教育推進及び教職員の資質向上を目的として、教職員合同研修会を次のとおり実施した。なお、本年度初めて、岩国短期大学・高水高等学校合同の「SWOT分析」の研修を行った。

令和2年度教職員合同研修会

月 日	内 容
7月29日(水)	自己点検・評価教職員全体研修会①
8月5日(水)	岩国短期大学・高水高等学校合同推進会議「SWOT分析」
8月26日(水)	経営・財務状況等経営改善に関する説明会
9月16日(水)	自己点検・評価教職員全体研修会②
12月22日(水)	ウイルス感染症の予防について
1月20日(水)	FD・SD合同研修会岩国短期大学中期計画
2月19日(金)	ハラスメント研修会
3月23日(火)	自己点検・評価教職員全体研修会③

④令和2年度「認証評価」に向けての自己点検・評価活動の推進

本年度は、7年に1回受審する大学・短期大学基準協会による認証評価の年度であった。6月に、「認証評価用自己点検・評価報告書」及び関係書類を提出。報告書は、自己点検・評価運営委員会が中心となり、全教職員で作成した。9月に行われたオンラインによる訪問調査では、質問事項に対して、根拠資料を提示しながら説明を行い評価委員の先生方の高い評価を得た。その後、令和3年3月に「適格」認定を受け、本学及び法人のこれまでの取り組みが評価された。

特に優れた試みと評価された主な事項は次のとおりである。

- 岩国子育て支援ネットワーク(lwatan 子育て愛ねっとアカデミー)は、多くの関係機関と連携・協力し、「lwatan 親子フェスタ」へのブース出店やボランティアなどを実践している。
- 幼児教育科の教育目的・目標に基づく人材養成が地域・社会の要請に込んでいるか点検するために、関係機関へのアンケートや聞き取り調査を定期的に行っている。
- 全教職員が内部質保証に取り組んでいる。
- 独自のキャリア支援プログラムを作成し、全教職員で職業教育に取り組んでいる。また、ステークホルダーへの周知を図っている。
- 「幼児教育科教育活動自己点検評価表」により、学習成果の具体的な達成目標を定められ、学生自身が、「学習記録」や「学習成果個人 Check カード」により自己評価、教員による査定ができるようにしている。

- 保護者懇談会を開催し、短期大学の取り組み(建学の精神等含む)、学生の学習状況等の情報提供を図り、家庭との連携を密にしている。基礎学力が不足している学生に対して、補講、課外講座を開講する等、きめ細かい個別指導を行っている。
- 新卒者を対象にした「フォローアップセミナー」を開催し、早期離職防止に努めている。
- 事務協議会やSD研修をとおして情報を共有し、「事務局窓口対応マニュアル」を基に、事務職員全員が適切に電話や窓口対応ができるよう態勢を整え、充実したサービス提供を実現している。

■【高等学校】

I 事業報告

予測のつかない社会また変化の激しい時代を生き抜いていくために、目の前にある問題を自分の課題として捉え、仲間と協働しながら自分なりの納得解を見つけ出し、新たな価値を創造する資質・能力を養成するための計画を立案した。

しかし、4月15日(水)～5月24日(日)までコロナ感染防止のために臨時休業。授業が中断し、1学期の学校行事等は中止をせざるを得なかった。特に、今年度、生徒の自己肯定感・有用感を高めるための講演と研修を生徒・教職員・保護者に企画していたが、これも中止に追い込まれたのは誠に残念であった。

コロナ禍、まず授業時間の確保のために夏季休暇の縮減と年間計画を見直した。コロナと共生しながら、2学期以降はほぼ予定通り学校行事を実施し、遅れていた授業も3学期終了までには回復できた。しかし、普通科2年生の関東方面の修学旅行、姉妹校との定期的な交流会は感染拡大に鑑み、中止した。

具体的には、「学校運営の質」を高めるために、自己目標アンケートを利用して校長が全教員と2回の面談と3回の学校関係者評価委員会を開催した。

次に、「授業の質」を高めるために、授業評価アンケートを取り入れた授業改善と全教員によるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の視点での教員研修をコロナ禍の中で実施した。

また、1,2学期には学習指導、生徒指導、進路指導、特別支援教育について、「教職員の質」の向上のために外部講師を招いての4回の教員研修を予定していた。しかし、生徒指導と特別支援教育の研修会はコロナ禍のために外部講師を呼ぶことができず中止した。

オープンスクールはコロナ感染拡大防止のために、1回目は生徒のみの参加、2回目は生徒・保護者参加の下で実施した。

今年度の取り組みについて、詳細は、次の事業内容に記す。

II 事業内容

1. 本校での3つの保障(人間性・基礎学力・進路)に対して以下の取り組みを行ったが、コロナ禍のために1学期の学校行事はほとんど中止をせざるを得なかった。2学期以降については、感染防止策を講じながら実施した。

(1)学力の保障

①教員研修 年5回(1学期2回、2学期3回)

コロナ禍のためICTの活用をテーマに研修を積んだ。

②教科会議 原則、毎週1回、英・数・国・社・理・保健・芸術・家庭科で実施。

③研修大会はコロナ禍のため中止

(2)人間性の保障 特別活動(生徒会活動・学校行事)や部活動を通じた取り組みを実施。

①運動会 9月5日 コロナ禍のため中止

②楽学祭 9月18日～19日 テーマ「Revolution ～大革命～」 保護者の参観なしで実施

③修学旅行

○普通科 2 年生修学旅行 2 月 16 日～19 日、東京方面で実施予定であったがコロナ禍のため中止。

○六年制普通科 1 年生 10 月 25 日～31 日、オーストラリアへの修学旅行は来年度に延期。

④挨拶・無遅刻無欠席運動週間 楽学石碑前、南岩国駅前で各学期 3 回実施であったがコロナ禍のため中止

⑤普通科 2 年生インターンシップ(11 月 11 日)はコロナ禍のためボランティア活動に変更して実施

⑥部活動 インターハイはコロナ禍のため中止になったが選抜大会は以下の 3 部が出場した。

○団体:空手道部男女・女子ハンドボール部

○個人:柔道部

◇全日本高校模擬国連大会 1 チーム出場 11 月 8 日・9 日 コロナ禍のためオンライン開催
「地域特別賞」ニューヨーク国連大学への参加資格を獲得

(3)進路の保障

①進路指導 ○外部模試の活用 中 3～高 3 進研、全統、駿台模試を実施

○模試検討会 3 回

②進路研修会 ○高校保護者対象:各学年 2 回 ○生徒対象:各学年 2 回実施。

③就職:就職模試(2 回)、就職ガイダンス(夏季休業中)を実施

* 令和元年度卒業生(223 名)の進路

・進学者 120 名(4 年制大学 60 名、短期大学 14 名、専門学校 68 名)、浪人生 7 名

・就職者 53 名(公務員 11 名、民間 42 名)、家居(未定者)14 名

・職業訓練校 7 名

2. 学校関係者評価委員会:外部からの視点で 5 名の委員から指導・助言を得た。

○学校関係者評価委員:PTA:森脇美奈子、企業:長野英彦、中磯和子、教育界:弘中幸雄、
地域:山根修司の 5 名。

○年 3 回(各学期開催)6 月 5 日、11 月 12 日、3 月 6 日

* 3 月に自己評価書を理事会に提出し、次年度の改善策を検討した。

3. グローバル化・異文化理解に向けて下記の予定であったが、コロナ禍のため中止

○オーストラリア、サザンクロス.C.C 高校との短期交換研修プログラムを実施

9 月 23 日～29 日 サザンクロス.C.C 高校から、高校生 10 名、教員 3 名来校

4. 広報活動について 以下の入試に向けて、広報活動を展開した。

◇ 高等学校 六年制普通科:一般入試 1 月 10 日

普通科:特別・推薦入試 1 月 9 日、一般入試 1 月 27 日

(1)中学校への進路説明会

時期 6 月 4 日～7 月 28 日

対象 岩国市内の中学校 11 校、大島中、安下庄中、柳井中、上関中 計 15 校

(2)中学校訪問 4 地区 33 校への訪問(市内、玖西、柳井以西、広島西地区)教頭と科長を派遣

第 1 回 7 月 20 日～27 日 次年度の入試について、学校案内、オープンスクール

第 2 回 3 月 22 日 24 日 市内 6 校に各 2 名ずつ派遣

今年度入試の情報収集と入学生の情報と意見交換

(3)塾対象説明会

9 月 11 日 岩国市内、柳井、広島市地区から 18 名参加

(4)中学校教員対象進路説明会

9 月 24 日 岩国市内、柳井・大島地区、西広島地区から 27 校参加

(5) オープンスクールの開催(8月・11月)

第1回 8月4日～5日:参加者 519名(生徒 500名、保護者等 19名)

内容 ①入試対策講義 ②クラブ見学・クラブ体験③校内見学

第2回 11月3日:参加者 108名(生徒 74名、保護者等 34名)

内容 ①入試対策講義 ②校内見学 ③クラブ体験

(6) 下記の文化部の発表会はコロナ禍のため中止

○長唄三味線発表会(8月23日、シンフォニア岩国)生徒、保護者、一般

■【付属中学校】

I 事業報告

本校は教育基本法に明記されている教育の目的と目標の達成を目指しながら、いかに幸せな人生を送れるかという観点から教育内容を具体化し、今年度も、特にこれからの時代と社会に必要な教育として、次の2点を掲げ、実践した。

(1) 志を育む教育

「志を育む」教育では、課題や問題点を発見する能力と、発見した課題・問題を解決していく能力を高めるための具体的な方法を構築してカリキュラム化しなければならない。今年度は、各教科と総合学習の時間の中に、各担当者が探究学習の観点を取り入れるための試行期間とした。

(2) 多様性社会を生み出す教育

急激なAI化、グローバル化の中で、日本の民族的、文化的同質性という特徴が私たちの生活にどんな影響を及ぼすかは、少子高齢化によって国外からの労働力移入が不可避となる中、多様性社会の可能性はいつそう喫緊の課題となった。

ところが今年一年、コロナ禍によって、これからの時代と社会に必要な以上のような教育に多くの困難が付きまとった。コロナ禍で励行しなくてはならなくなった「新しい生活様式」によって、グループ学習や意見発表、プレゼンによる課題の共有等、凡そ協働的な学習というものが大きく阻害された。また、校外活動と交流は、ことごとく中止ないし縮小という事態に陥り、ここ数年成果を上げつつあった本校独自の教育活動が著しく足止めされた結果となった。

こういったことが生徒たちにどのような影響を最終的に与えることになるかは、今はまだよくわからない。しかし、いつか確実に生徒の学力や人格に悪影響、もしくは成長の滞りとして顕在化するに違いない。コロナ禍で失われたものは数値で表せないだけに反ってその結果の大きさが恐ろしい。

コロナ禍で当初、学校休業を余儀なくされ、休業期間中の生徒たちへの学習支援の観点から文科省は校内RANとICT整備、そして生徒の一人一台タブレットを急遽実現させた。本校は2年前からこの件について法人予算で独自に進めてきており、教員のスキルやタブレットによるリモートでの学習指導等には比較的スムーズに対応できた。

今年度の具体的な取り組みについては、次の事業内容に記す。

II 事業内容

(1) 学力保障

① 教職員の資質向上

・研究授業の推進:ICT機器及びタブレットを活用したアクティブ・ラーニング(AL)の研究をテーマに上げたが、コロナ禍で協働学習を控えざるを得なくなり、滞った。

・校内教職員研修会の実施:コロナ禍、中止。

・校外研修会への積極的な参加::コロナ禍、ほぼ中止。

② シラバスの改善:アクティブ・ラーニング(AL)が低調となり、必然的にルーブリック評価の研究も後退。

③ 外部模試による客観的な学力把握

- ・学力推移調査：春夏冬3回、全員受験。ただし、結果を基に模試検討会は中止。
- ・高1進研模試：夏年1回、3年生の成績上位者としていたが、受験を見合わせた。
- ・GTEC(英語4技能)：受験せず。大学入試改革の縮小で、実施する意義が見失われた。
- ・GPS-Academic(探究的な学習の成果)：昨年度実施結果を踏まえ、以後受験取りやめ。

(2) 人格保障

① 学校行事への取り組み(生徒会活動の活性化)

- ・運動会中止。楽学祭は生徒会企画でウオーラリー(中学交流会)を実施 9月19日。
- ・中六合同発表会は時間短縮、保護者観覧不可で2月17日開催。
- ・英語暗唱大会 9月23日、30キロ遠足 11月2日、百人一首カルタ大会 3月22日、予定日前後のコロナ感染状況を勘案しながら、延期も含め何とか実施。伝統行事は絶やさず、先輩から後輩へ受け継がせることが運営上必要不可欠と改めて実感した。

② 学年行事を楽しむ：1学期に予定されたものはすべて中止

- ・1年：高水訪問、スプリングセミナー：中止。
- ・2年：史跡めぐり中止、サマーセミナー8月2日～4日、14歳新たな誓い3月12日実施。
- ・3年：オータムセミナー10月23日、平和学習を兼ねた枠組みとし、回天記念館を日帰り実施。

③ ユネスコスクール高水の推進

- ・地域貢献としてのボランティア活動：10月31日、愛宕地区社福の皆さんと共同で清掃活動を実施。
- ・岩国ユネスコ協会との連携：コロナ禍で実働なし。
- ・国際理解と国際協力のための作文コンクール等への参加：県知事賞受賞
- ・海外姉妹校との交流プログラム(ホームステイ)：延期

④ 部活動の活性化

- ・短時間でメリハリをつけ、効果的に技術を向上させる：コロナ禍で時短を余儀なくされ、1学期の対外試合は中止となった。

(3) 進路保障

- ① エナジード教材による「キャリア教育」を実践：1、2年生で使用。使い方次第で有益だが、学校全体で採用するかは未定。長年使ったベネッセ「進路サポート」の採用は取りやめ。
- ② 楽学テストの実施 夏秋冬年3回 全学年対象：滞りなく実施。
- ③ 探究学習による論理的思考力や知的好奇心の醸成：探究学習の時間を有効に使えた。

(4) 地域貢献

- ① ESD パスポート(ボランティア活動)の推奨：校外活動はほぼ停止。
- ② 生徒会による挨拶運動の推進：生徒会役員を中心に行ったが、大きな声ははばかられた。
- ③ 愛宕地区社会福祉協議会との連携による地域清掃の実施 10月31日

(5) 入学定員確保

① 「楽学フェスタ 2020」(オープンスクール)について

- ・PR活動 7月下旬～8月上旬 岩国・柳井近郊の学習塾 22校を訪問
- ・参加者 第1回 7月11日(土)72名 第2回 8月23日(日)94名 計 164名
- ・参加児童数：全2回で計 73名(内6年生 37名)
- ・プログラム i 模擬授業体験、ii ものづくり体験 iii 教育ガイダンス

② 小学校訪問

- ・周南市～五日市市の約80校を訪問、学校長に挨拶

- ・5月中旬 「楽学フェスタ」の紹介と出身生徒の現状報告
- ・8月下旬 入試説明会の紹介と次年度入試について、卒業生の進路状況
- ③学習塾での保護者説明会
 - ・6/18(木)と7/3(金)に開催。本校からは「楽学フェスタ」の紹介と卒業生の進路、教育内容の紹介。

Ⅲ. 主な施設・設備整備事業の概要

【法人】

- 学園全体で、施設設備の補修・修繕を計画的に実施した。

【短期大学】

- 施設整備の補修や修繕計画を立案し、1号館水道管破損のため、緊急復旧工事実施に向けて計画書を作成した。
- 全学内無線LANの整備および教育装置の入れ替えによる、教育環境の充実を図った。
- 本館1階及び2階の教職員用トイレの洋式化と改修工事を行った。

【高等学校・付属中学校】

- 第2職員室の教員全員にタブレットを配付し、ペーパーレス化と業務の効率化に向けた取り組みを推進した。
- ICT教育設備整備事業を実施し、校内LANの整備を行うとともに、中学生には一人一台のタブレットを配付しデジタル教育の推進を図った

IV. 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表の状況

基本図書（第1号基本金に該当）の法人台帳と図書館台帳の差を修正した。

② 収支計算書の状況

私立大学等経営強化集中支援事業は、令和2年度でもって終了した。

(2) 経年比較

① 貸借対照表

(単位：千円)

	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
固定資産	4,429,184	4,344,023	4,248,559	4,130,271	4,014,189
流動資産	465,384	462,418	449,508	545,776	469,580
資産の部合計	4,894,568	4,806,441	4,698,067	4,676,047	4,483,769
固定負債	181,918	181,598	181,081	174,124	167,863
流動負債	117,263	133,513	86,796	168,241	99,485
負債の部合計	299,181	315,111	267,877	342,365	267,348
基本金	4,607,252	4,644,541	4,635,437	4,628,942	4,634,093
繰越収支差額	△ 11,866	△ 153,211	△ 205,247	△ 295,259	△ 417,672
純資産の部合計	4,595,387	4,491,330	4,430,190	4,333,683	4,216,421
負債及び純資産の部合計	4,894,568	4,806,441	4,698,067	4,676,048	4,483,769

② 収支計算書

ア) 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
学生生徒等納付金収入	453,900	422,733	427,488	380,606	395,441
手数料収入	25,178	23,444	21,089	21,532	19,191
寄付金収入	29,393	25,354	17,653	14,668	5,026
補助金収入	387,890	322,811	319,412	279,706	304,276
資産売却収入	0	0	0	300	0
付随事業・収益事業収入	23,639	28,356	23,050	19,597	17,789
受取利息・配当金収入	4,346	3,280	2,306	2,614	2,359
雑収入	62,063	71,181	37,336	110,057	49,187
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	43,750	49,635	42,223	45,895	37,663
その他の収入	118,319	101,851	109,284	116,540	164,543
資金収入調整勘定	△ 116,890	△ 137,017	△ 87,957	△ 166,467	△ 149,626
前年度繰越支払資金	272,016	394,147	367,662	410,442	416,929
収入の部合計	1,303,604	1,305,775	1,279,546	1,235,490	1,262,778

支出の部	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
人件費支出	690,547	699,397	636,051	715,584	631,110
教育研究経費支出	118,353	166,986	132,484	106,695	142,804
管理経費支出	26,193	28,477	46,656	28,700	28,938
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	70,972	49,838	9,558	1,752	4,235
設備関係支出	8,531	1,999	5,294	5,667	7,702
資産運用支出	28,501	1,940	500	33,333	26,221
その他の支出	32,766	65,662	76,188	41,638	115,309
資金支出調整勘定	△ 66,406	△ 76,186	△ 37,627	△ 114,807	△ 55,809
翌年度繰越支払資金	394,147	367,662	410,442	416,928	362,268
支出の部合計	1,303,604	1,305,775	1,279,546	1,235,490	1,262,778

イ) 活動区分資金収支計算書

(単位：千円)

科目	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	922,489	858,430	841,036	823,506	756,591
教育活動資金支出計	835,093	894,860	815,191	850,978	802,853
差引	87,396	△ 36,430	25,845	△ 27,472	△ 46,262
調整勘定等	△ 8,325	△ 8,597	8,975	△ 4,325	△ 14,420
教育活動資金収支差額	79,071	△ 45,027	34,820	△ 31,797	△ 60,682
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	111,573	65,450	19,991	29,960	52,321
施設整備等活動資金支出計	79,503	51,837	14,851	7,419	11,937
差引	32,070	13,613	5,139	22,540	40,384
調整勘定等	744	744	744	△ 4,603	△ 32,298
施設整備等活動資金収支差額	32,814	14,357	5,883	17,937	8,086
小計 (教育活動資金収支差額・設備整備等活動資金収支差額)	111,885	△ 30,670	40,703	△ 13,860	△ 52,596
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	38,746	6,125	3,322	53,832	24,657
その他の活動資金支出計	28,500	1,940	1,246	33,484	26,722
差引	10,246	4,185	2,076	20,347	△ 2,065
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	10,246	4,185	2,076	20,347	△ 2,065
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	122,131	△ 26,485	42,779	6,487	△ 54,661
前年度繰越支払資金	272,016	394,147	367,662	410,441	416,929
翌年度繰越支払資金	394,147	367,662	410,441	416,928	362,268

ウ) 事業活動収支計算書

(単位：千円)

科目		28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	453,900	422,733	427,488	380,606	395,442
	手数料	25,178	23,444	21,088	21,532	19,191
	寄付金	26,523	23,344	16,021	12,710	4,767
	経常費等補助金	331,187	289,531	316,208	279,206	270,455
	付随事業収入	23,638	28,356	23,050	19,597	17,789
	雑収入	62,063	71,181	38,310	110,057	49,188
	教育活動収入計	922,489	858,589	842,165	823,708	756,832
	事業活動支出の部					
	人件費	684,851	699,076	636,472	708,626	624,850
	教育研究経費	211,287	261,143	211,411	183,989	219,126
	管理経費	29,748	31,970	50,127	32,170	32,525
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	925,886	992,189	898,010	924,785	876,501
教育活動収支差額	△ 3,397	△ 133,600	△ 55,845	△ 101,077	△ 119,669	
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	4,346	3,280	2,306	2,614	2,359
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	4,346	3,280	2,306	2,614	2,359
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0	0	0	
教育活動外収支差額	4,346	3,280	2,306	2,614	2,359	
経常収支差額	949	△ 130,320	△ 53,539	△ 98,462	△ 117,310	
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	172	0
	その他の特別収入	59,573	35,561	5,525	2,825	34,559
	特別収入計	59,573	35,561	5,525	2,997	34,559
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	46,162	9,298	13,126	1,041	34,511
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
特別支出計	46,162	9,298	13,126	1,041	34,511	
特別収支差額	13,411	26,263	△ 7,601	1,956	48	
基本金組入前当年度収支差額	14,360	△ 104,056	△ 61,141	△ 96,507	△ 117,262	
基本金組入額合計	△ 5,371	△ 37,312	△ 8,204	△ 1,162	△ 5,150	
当年度収支差額	8,989	△ 141,368	△ 69,345	△ 97,669	△ 122,412	
前年度繰越収支差額	△ 56,267	△ 11,865	△ 153,210	△ 205,247	△ 295,259	
基本金取崩額	35,413	23	17,308	7,657	0	
翌年度繰越収支差額	△ 11,865	△ 153,210	△ 205,247	△ 295,259	△ 417,672	

(参考)

事業活動収入計	897,431	849,996	828,196	829,321	793,750
事業活動支出計	1,001,487	911,136	911,137	925,827	911,012

(4) その他

① 有価証券の状況

西中国信用金を35,000円保持

② 借入金の状況

なし

③ 学校債の状況

なし

④ 寄付金の状況

一般寄付金として、個人及び後援会から3,996,400円、特別寄付金を会社及び後援会から1,030,000円(受配者指定寄付金50,000円)を含み、獲得した。

⑤ 補助金の状況

公開講座等の補助金を恒常的に獲得している。

⑥ 収益事業の状況

なし

⑦ 関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者

あり(100万円未満の賃料のため、取引の重要性を判断する際の取引基準に該当しない。)

イ) 出資会社

なし

⑧ 学校法人間取引

なし